

2/18
976

「南スーダン即時撤退を」

法律家団体「戦闘」言い換え批判

南スーダン国連平和維持活動(PKO)に派遣され



集会で、南スーダンに派遣されている自衛隊部隊の即時撤退を訴える女性(左)=17日、衆院第1議員会館で

求めている自衛隊の即時撤退を
求める集会在十七日、東京

都千代田区の衆議院第一議員会館であった。部隊の日報の「戦闘」という文言を憲法に抵触しないよう「武力衝突」などと言い換える政府への批判が相次いだ。主催は、改憲問題対策法律家六団体連絡会。集会の冒頭、南スーダンで人道支援を行う日本国際ボランティアセンターの谷山博史代表理事が現地情勢を報告した。昨年七月の政府軍と反政府軍の衝突は「迫撃砲やヘリが使われた激しい戦闘だった」と強調。現地ではその後も対立が続ぎ、市民への殺りくや略奪が横行しているとし、「自衛隊が交

戦に巻き込まれる危険性がある」と指摘した。自衛隊員の母で、「平和子」の名で南スーダン派遣に反対する活動をしている北海道の五十代の女性は「こんな所にうちの息子が行かされることになったらと思うと、胸が苦しくなる」と語った。自衛隊の海外派遣を巡る政府の姿勢に「結局、国民に何も知らせない」と不信感をあらわにし、「身内に自衛官のいる方や、嫌だ、駄目だと思う方は遠慮せず、声を上げて大丈夫。声を合わせれば必ず平和は手に入られる」と呼び掛けた。